

論壇

メイ首相案の議会承認鍵

英国の欧州連合（EU）からの離脱「ブレグジット（BREXIT）」の期限が迫っている。それに向けていろいろな情報が入り乱れているが、どうもあまりよい話はなさそうだ。メイ首相は英国の離脱によるショックを最小限に抑えるための交渉をEU側と進めてきた。その内容は報道内容から想像するに、英国の静かな離脱を進める上で妥当な交渉結果のようである。

問題は、それを英国の議会が了承するのがどうかということだ。議会には強硬な離脱論者が多くお

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

り、メイ首相が進めている穏健な離脱案を承認しない可能性が高い、と指摘する専門家も少なくない。私は英国の政治のことは専門ではないが、英国の離脱問題は英国国内の深刻な政治問題となつていくようだ。そもそも英国の離脱の是非を国民投票にかけたことが正しくなかったと考える人が多

英国離脱による市場の混乱

い。結果的に、離脱を強行に進めようとする人たちと、それを好ましくないと考えた人たちの間に、大きな意見の分裂が生じている。いずれにしろ、もしメイ首相が進めている離脱案が英国の国会で否決されるようなことになったら、12月に英国の秩序なき離脱が

起きる危険が現実化することになる。そんなことになれば、英国の国境を越える貿易や航空路など、さまざまなところで大混乱が起きる可能性がある。金融の取引なども大きな影響を受けることになるだろう。

専門家の中には、仮にメイ首相の案が否決されたら、その後の混乱を避けるため、英国の離脱の時期を先送りする交渉がEUとの間で行われるのではないかと見通しを持っている人もいる。一時的な混乱を避けるためにはそうした先延ばしが必要になるかもしれない。そこで再度、国民投票があるという可能性さえ言われることがある。さすがに2度目の国民投票は難しいと思われるが、いずれにしてもこの先の英国やEUの情勢は流動的である。

小さくない日本への影響

日本にとつては、こうした英国の状況は遠い世界の話のように見

えるかもしれない。しかし、日本の企業が欧州の中で一番投資を行ってきたのは、英国である。英国は世界の金融センターとしての地位を確立しており、日本の金融機関の多くもロンドンに進出している。英国経済に何か大きな変化が起きることがあれば、日本への影響も小さくない。

グローバル化が進む中では、世界のどこかで起きた動きが、世界全体に大きな影響を及ぼすことが少なくない。普段は欧州の政治状況などあまり関心がないという人も多いだろうが、これから1カ月ぐらいは英国や欧州での動きに関心を持ってほしいものだ。グローバル化の中で揺れる英国の姿は、日本にとつても決して他人事ではないからだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。